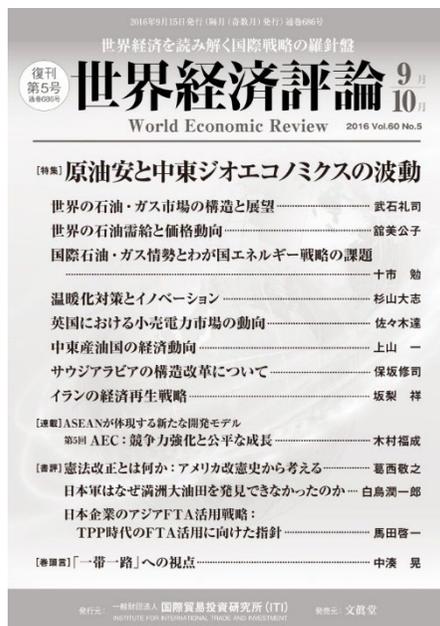


本論文は

# 世界経済評論 2016年9/10月号

(2016年9月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

## 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF



富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読  
期間中

### デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

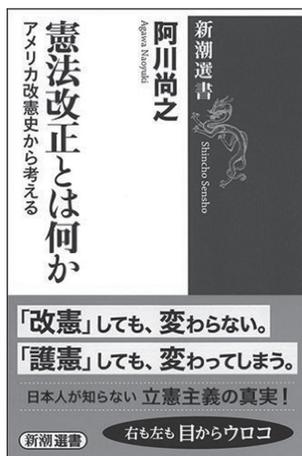
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp  
雑誌のオンライン書店

## 憲法改正とは何か :アメリカ改憲史から考える

東海旅客鉄道(JR 東海)  
代表取締役名誉会長

葛西 敬之



[著者] 阿川尚之 (あがわ なおゆき)  
慶應義塾大学名誉教授  
[発行] 新潮社, 2016年5月  
[判型] 46版, 316頁  
[定価] 本体1400円+税

アメリカ合州国の憲法制定・改正・解釈の通史を知ることができた。

まずは合州国が憲法によって建国されたこと、すなわち生い立ちの異なる13の州が結束して独立戦争を戦い、合州国という統一国家を作るためには「憲法」という横串により「国の容」を定める必要があったこと、また急速に変転する国際環境や国内情勢のなかで合州国が存続するためには、「国の容」を変化させなければならなかったこと、その重要部分は憲法解釈

の変更によってなされたこと、ある時には大統領、または合州国議会や各州議会、さらには合州国最高裁判所判事が解釈変更の主導者だったことなどを通じて、人造国家である合州国の統治は憲法の運用と表裏一体だったことが理解できた。

翻って日本の場合は米国とは対極的である。二千年の歴史の中で「日本国」は自成した。米国の指導者達は、憲法制定という形で合州国の骨組みを作り上げなければならなかったが、日本の場合は荒海に守られた安全な島国という地勢の下で、長い時間を通じて日本人、日本文化と日本という国土が形成された。日本の場合、憲法はすでに存在している文化的地理的統一体に西欧流の国民国家の形と国民意識を与えるものだったように思える。

日本の憲法論議が国の安全保障という死活的な現実から遊離し「憲法学者の」、「憲法学者による」、「憲法学者の為の」神学論争に終始してしまわれている根源はここにあるのだと思いがた。

明治憲法は50年以上一度も改定されことなく敗戦により消滅し、現憲法は一言一句の改定もなく70年を経ている。今日進行しつつある安全保障環境の劇的変化に対応するための現実的解釈すら認めない憲法学者たちの議論は、戦前の天皇機関説を巡る硬直した議論に似ているという著者の感想を読みながら、現代日本の憲法学者も大日本帝国の時のように滅びなければ目が覚めないのではないかという危惧を覚えた。

(かさい よしゆき)

### 書評委員について

世界経済評論書評委員は、最近1年間ほどの間に出版された書物並びに自らを含めた評者の選定を行い、各号の書評欄の寄稿を担当します。次の14氏が書評委員です。石川幸一、猪口 孝、馬田啓一、浦田秀次郎、江夏健一、葛西敬之、橘川武郎、木村福成、朽木昭文、清水一史、白木三秀、田中素香、松下満雄、安室憲一の14氏。